

2018年 3月23日

# 未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第106号



## 目標は何でしたか？

“未来への扉”は基本的には保護者向けに書かれたものですが、本年度は生徒から発行を楽しみにしているという声も寄せられて嬉しい限りです。難しい漢字や言い回しもあるのに、すごいことだなと感じています。そこで今年度最終号となる今回は、生徒にも聞いてほしいことを書いてみようと思います。



それまで全く挨拶しなかった生徒が、二学期頃のある時から急に挨拶をする生徒になる。毎年何人かいます。自然にはなりません。挨拶をする、と決めて実行し続ける訳です。このように「自分が何をするか」を大切にしている生徒は大きく成長します。挨拶の次は、その次は、と繰り返し力は付いてくるのでしょう。

反対に「何をしてもらおうか」ばかりを大切に はいけません。人間ですから少しは「グチを聞いてほしい」「ほめて欲しい」等はあるでしょう。しかし「する自分」に期待しないで、「してくれる周りの人」ばかりに期待しても、自分は成長していきません。

さあ、あなたは何をしますか？

学年や学期の始めに立てた目標を思い出してみましよう。そこにはきっと自分に期待する言葉や、周りの大人達があなたに期待する言葉があるはずです。

今年度の“未来への扉”の感想や、来年度の「未来への扉」にリクエストがございましたら支援部までお知らせ下さい。一年間ありがとうございました。

そうそう、私はお笑いが大好きなのですが、「R-1ぐらんぷり2018」ご覧になりましたか？ゆりあんレトリィバァ達と決勝を戦って見事優勝した視覚障害のある濱田祐太郎さんは神戸市出身だそう。ネタになっていた特別支援学校ってどこなんでしょうね◎？

I. Y

あっという間に1年間が過ぎようとしています。1年生の担当をさせてもらい、バタバタの春。その後の沢山の行事や実習を生徒と共に乗り越えてきました。1年経ってようやく高等特別支援学校に慣れることができました。年度末を迎え、生徒達にいつも言うことがあります。「ただ何となく1年が経ったからひとつ上の学年になるんじゃないよ。1年間分の学びを終えたから次の学年になるんだよ」と。私にとっても1年生にとっても変化の激しい1年でした。今年の経験を来年度に生かしていけるよう、春休みにはゆっくり充電してほしいと思います。

1 学年支援部 S. A

今年も1年が終わってしまいました。この時期になると、いつも「今年度、自分は何ができたのか」と振り返ってしまいます。2年生たちは、いよいよせまってきた自分の進路に向き合い、「社会人とは・・・」という気持ちが芽生えつつあります。私たち教師も日々の学校生活の中で、「学生だから・・・」と見逃してきた部分を、「社会では・・・」と生徒たちに伝えていかなければと思います。そして生徒たちには「来年の今頃はどうなっていたいか」と考え、来年度の目標を立ててほしいです。僕も振り返り考えてみようと思います。1年間ありがとうございました。

2 学年支援部 N. D

3月1日に22期生を無事送り出し、ホッとしたと同時にぽっかりと心に穴が開いたような感じもします。高校生活最後の年を有意義なものにしようと、学びも遊びもパワー全開で取り組む生徒たちと共に過ごし、あっという間の1年でした。保護者の皆さまには、いつもご協力いただき助けていただきました事、大変感謝しております。私自身は、もっとこんな力をつけてあげたかった...。もっとこんな支援の方法があったのに...。と、今になって気付くことがいくつもありました。この思いを今後のより良い支援に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

3 学年支援部 Y. H

今年度も『うちの先生♪』を担当しました。“うちの先生”の知らなかった一面を紹介出来たら嬉しいと思っていますがどうでしたか？ そうそう、ある日ある生徒が「ぼく、『うちの先生♪』のコーナーが楽しみなんです。次はいつ発行されますか？」と聞いてくれました。生徒のそのような声は初めてでしたので私の方が嬉しくなりました。私がお手伝いできる支援は、人と人をつなぐことだと思っています。今度はリクエストも募集してみようかな。なに先生とつながりたいですか？

『うちの先生♪』のレポーター Yこと Y. N

3年生が卒業し、1・2年生だけのマラソン大会が行われるこの時期がくると「あ～1年間終わったんだな～」とほっとするような淋しいような気持ちになります。今回のマラソン大会には卒業した3年生が何と10人も有馬富士公園に来てくれました。中でも、在校生と同じ3周走ってくれたA君、1年生のBさんを叱咤激励して伴走し見事完走に導いたCさんの姿には心を打たれました。“人を動かす”とはこういうことだなと若い2人に教えられた近藤です。